座間市立入谷小学校　校長室通信　NO.26　　2021.11.29（月）
校長　山﨑　聡子

笑顔いっぱい　かがやく入谷っ子

心の中は・・・

虹がかかる　空には 雨が降ってたんだ
いつか虹は消えるけど
雨は　草木を育てていたんだ

虹がかかる　空には　雨が降ってたんだ
いつか虹が消えてもずっと
僕らは空を見上げる

雨が止んだ庭に　花が　咲いてたんだ
きっと　もう大丈夫

そうだ　次の雨の日のために
傘を探しに行こう

（RAIN：SEKAI NO OWARI）

この希望にあふれる歌に出合ったのは，2017 年。子供たちが，朝の会で流した時に初めて聴きました。心を揺さぶられ，SEKAI NO OWARI の生の歌を聴きたいと思い 2019 年にコンサートに行きました。その中で，ボーカルの深瀬慧さんは１０代の頃に心を病み，精神病院の閉鎖病棟に入院し「世界が終わった」と思ったこと，でも，そこから幼なじみの仲間に支えられバンドを始めたこと，「世界の終わり（SEKAI NO OWARI)」というバンド名は，どん底からスタートしたことから名付けたとの話がありました。一番心に残ったことは，「 頑張ることは大変だけれども，頑張れないことは，頑張れることよりも辛いことなのだ」という言葉です。周りからは怠けているように見えても実は，何もしていないのではなく，できない状態にあり，苦しんでいる人なのかもしれないと，理解しようとしてくれる人がいるだけで，その人は救われるのだと話されていました。

私達の周りには，どのような人達がいるでしょうか。あるいは，私達は，周りの人達をどのように捉えているでしょうか。そして，弱い立場にある子供たちをどのように受け止めているでしょうか。

座間市教育研究所の教育心理相談員の和田眞明さんが，お書きになったものに次の内容(一部抜粋)がありました。「不適応に至った子供たちには，ある程度のレベルで汎化できる流れはあっても，その過程には本人だけのストーリーがあります。心が休まらない日々を送っている子供には，その辛さに焦点を当てて理解していく，つまりその子だけが持つ固有の傷つきに寄り添っていくことが大切な支援となります。」

自分と同じ人間はいませんし，子供たちも一人格をもった存在。お互いに完全に理解し合うことはできないことを自覚しながらも，一人一人の痛みはなんだろうかと精一杯考えていきたいと思います。すぐに答えは出ないことが多いと思いますが，困り感を抱えている子供たちが，前を向いて歩いていけるように，共に考えていきたいという思いを持ち続けていくことを大切にしていきたいと思っています。

深瀬さんが，暗闇の中にあったにもかかわらず，聴く人に力を与える曲を作成する等，御自分の力を発揮されているように，これからの社会を生きていく子供たちが自信をもって，自分の良さを輝かせることができるよう支援していきたいと思います。